

平成25年 9月 定例会（第3回） 会議録(抜粋)

◆**正田富美恵議員** 皆様、おはようございます。公明党の正田富美恵でございます。通告に従い、公明党を代表して質問させていただきます。

質問の内容は、子育て支援・教育・市民生活の3点です。順次質問させていただきます。

急速に進む少子化、子育て世代を取り巻く環境は変化しております。そのような中で、国は、女性が輝く社会実現のために、女性が働きやすい環境づくりとあわせて子育て支援に取り組んでいくことを発表されております。女性だけが子育てをするのではないとの異論もあるようですが、さまざまな面から子育て世代にとって期待のできることでと思います。

この子育て支援について、秋葉市長は所信表明において、住み続けたいと思える八千代市にするために、新川計画のみを優先する考えは見直し、子育て支援・教育を財政の健全化を目指しながら充実すると、子育て支援の飛躍的充実を掲げております。

そこで、お伺いいたしますが、市長の目指している子育て支援とはどのようなことなのか、お考えをお聞かせください。

◎**秋葉就一市長** 公明党を代表しての正田富美恵議員の代表質問にお答えいたします。

御質問でございますけれども、私が所信表明で述べさせていただきました子育て支援策の、選挙でも訴えてまいりました飛躍的充実ということにつきましては、まず子ども部所管のもので申しますと、選挙公約で公約いたしました子ども医療費助成の拡大や認可保育園等の増設で待機児童をゼロとしていくこと、認可外託児所利用者への支援策の導入あるいは保育園等の耐震化や老朽化対策の実施、これには学童保育所も含まれます。すてっぷ21といった施設も含まれます。保育園の給食食材の放射能検査の充実などでございます。

このほか、紙ベースの公約では触れることはありませんでしたが、ぜひ実現に向けて努力していきたいという施策といたしましては、ファミリー・サポート・センターの維持・充実や小規模保育の充実、さらには子供が利用する施設における化学物質やアレルギー食品に対する対策等でございます。

私は、私の当選を支えていただいた市民の皆様の中には、先ほどもいろいろございましたけれども、多くの子育て世代の方々がいたと確信をしておりますけれども、八千代市の将来を見据える上で、あるいは一地方にとどまらず日本という国全体にとっても、子育てしやすい環境を整え、自治体や国も支える子供に視点を置いた施策は二の次にはできない重要施策と考えております。

こうした中で、私たちは、まずは目の前の一步から踏み出さなければならないわけでありまして、小さな事業であったとしても、一つ一つ積み重ねていく姿勢が肝要であると考えております。

以上でございます。

◆**正田富美恵議員** それでは、秋葉市長は子ども医療費の拡大について公約されております。子ども医療費助成の中学校3年生までの助成、このスケジュール、またいつまでに実施するおつもりなのか、お答えください。

◎**秋葉就一市長** 子ども医療費の対象年齢の拡大につきましては、新たな対象者に対する広報や必要な申請を行っていただくための期間等を含む作業工程の作成・確認を今、進めているところでありまして、千葉県の子ども医療費助成制度とのバランスも考慮に入れ、今後、新たに必要と

なる費用と財源の調整等を行った上で、まずは第一段階として小学校6年生までの拡大を図る等、段階的な拡大も含め、現在、実施に向けた検討・検証を進めているところであります。

◆**正田富美恵議員** 小学校6年生までの段階的な準備ということなんですけれども、いつまでにこれはしていこうと思っておりますか。

◎**秋葉就一市長** 現在、先ほどの市民クラブからの御質問に対する答弁の中にもありましたように、このほど昨年度決算の状況が確定してきた、そしてこれから本格的な来年度の予算編成に向けた作業が始まっていくわけでございます。

その中で、義務的経費を除いた一般財源、幾ら残るかということ具体的に積算した中で、小学校6年生までの拡大の時期について、めどを立てたいというところでございます。

ただ、できるだけ早くそれが実現できるように、今、庁内でさまざまな検討を行っているところでございますので、いましばらくお待ちいただけると幸いです。

◆**正田富美恵議員** 公正な選挙を通じて市長に選ばれた以上、市民に喜ばれる市政実現のために全力を尽くされることを願っておりますが、やはりいつまでにやるのか、こういう目標というのは大事だと思っておりますので、しっかりとその辺、市長がお決めになって、このときまでにやるということで訴えていただきたいと思っております。

それでは、社会保障と税の一体改革法案で、2015年度以降、消費税が10%になった場合、その増収分の中から毎年7,000億円を子ども・子育て支援策に投入し、待機児童解消に取り組むことが決まりました。地域の実情に応じた子ども・子育て支援事業計画の策定が早急に求められておりますが、子ども・子育て支援事業計画の策定に向けての本市の取り組み状況についてお聞かせください。

◎**坂巻祐一子ども部長** 御質問の子育て支援事業計画に向けましたスケジュールということでございます。

昨年8月に、子ども・子育て関連3法が制定されまして子ども・子育て支援の新たな制度が創設されたことに伴い、市町村では子ども・子育て支援給付及び地域子ども・子育て支援事業を総合的かつ計画的に行うこととされております。

特に、子ども・子育て支援給付に係る教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の提供体制の確保等を図るため、5年を一期とする計画の策定が義務づけられております。

このため、本市におきましては、今議会に提案させていただきました条例案に基づき子育ての当事者等で構成する子ども・子育て会議を設置し、国が示す基本指針に沿って、幼児期の教育・保育や子ども・子育て支援事業について、地域の実情に合わせた提供区域あるいは必要とされる量の見込みやこれらの提供体制の確保や実施の時期を定めた計画を策定するため、調査・審議してまいりたいと考えております。

具体的な計画策定のスケジュールといたしましては、まず子ども・子育て支援に係る現在の利用状況及び潜在的な利用希望を把握するためのニーズ調査を乳幼児の保護者や児童の保護者を対象に平成26年1月末までに実施し、この調査の結果に基づき、平成26年度中に、計画の策定に向けて子ども・子育て会議で審議し、計画案を同年9月末までに作成してまいります。

その後、県と調整を図った上で、同年12月ごろに計画案のパブリックコメントを実施、最終的に平成27年3月に策定してまいりたいと考えております。

◆**正田富美恵議員** ニーズ調査は26年の1月末までに実施ということですが、今回のこの子ども・子育て支援事業計画は、以前行った八千代市次世代育成支援後期行動計画策定のための実態調査以上に、調査対象が幼稚園や地域型保育事業等が加わることから、調査項目が大きくふえることが見込まれていると思います。

このニーズ調査の項目等はいつごろ提示され、具体的にどういふことを市民から聞かれるのか、お聞かせください。

◎**坂巻祐一子ども部長** 現在、国から示されております調査票のイメージを参考に調査項目等を検討しております。今後、今議会に提案させていただいております八千代市子ども・子育て会議条例への御承認が得られましたら、速やかに会議を設置した上で、会議に調査項目案等を提示させていただき、御意見を伺った上で調査項目等を取りまとめ、遅くとも1月にはニーズ調査を実施したいと考えております。

◆**正田富美恵議員** 子育て家庭の声がこの事業計画に反映されるためにも、このニーズ調査はとても重要になってくると思います。今議会の条例案を踏まえて、子ども・子育て会議の設置をしてからとなると4カ月しかありませんので、十分な地域の声を聞く調査ができるのか、私は不安です。基本になってくるこの調査、丁寧に取り組んでいただきたいと思います。

続いて、待機児童対策についてお聞きいたします。

柏市は、2015年待機児童ゼロ、2カ年の行動計画を策定しました。そこには、私立認可保育園整備強化、既存施設の効率的な活用、よりきめ細やかな相談と対応という3つの柱を作成して取り組んでいくようです。

秋葉市長もマニフェストの中で、先ほどもお話ししていただきましたが、認可保育園の増設、駅前託児所の保育料も一部助成すると、待機児童をゼロにすると約束されております。今後の私立認可保育園の整備計画はどのように考えておりますでしょうか、お聞かせください。

◎**坂巻祐一子ども部長** 質問にお答えいたします。

私立保育園の新設につきましては、待機児童解消の効果が大きいものでありますが、民間法人の意思や財力等、さまざまな要因の影響を受け、実現には多くの課題がございます。

一方、私立認可保育園の増改築等の部分的な整備には、現在、国の安心こども基金を活用いたしました資金的な補助体制がありますことから有効な手段とされますので、今後、子ども・子育て支援事業計画の策定過程で明らかになる量の見込みに対応しました提供体制の確保という観点からも、適切な情報提供を通して対応してまいりたいと考えております。

◆**正田富美恵議員** そのほかにも市長は、複合施設化など、管理費節減のためにということで公約されておりますが、既存施設の効率的な活用についてはいかがでしょうか。

◎**坂巻祐一子ども部長** 既存施設の効率的な活用につきましても、新たな用地の確保を伴わない既存施設の活用は有効な手段であると考えております。地域の余裕スペースを活用した小規模保育園等の整備など、多様な保育サービスを提供することにより、さまざまな需要に対応できるよう検討してまいりたいと考えております。

◆**正田富美恵議員** 調査をして、そのアンケートをとって、その声にこたえていく中で、やはり相談体制というのはとても大事になってくると思います。

横浜市では、保育コンシェルジュ、これを設置して子育ての方たちに大変喜ばれていると伺って

おります。

今回、きめ細やかな相談と対応について、本市ではどのように考えておりますでしょうか、お聞かせください。

◎坂巻祐一子ども部長 現在、八千代市では、ホームページで各保育園の空き状況の情報提供を行っております。今後、子ども・子育て支援新制度で、地域子ども・子育て支援事業と位置づけられる利用者支援について、どのような形のものが八千代市にふさわしいか研究し、利用者のさまざまな需要に対応できるよう、近隣市とも情報交換しながら検討してまいりたいというふうに考えております。

◆正田富美恵議員 やはり相談というのは、一方的ではなくて、きちんと対応していただけるきめ細やかな対応が必要だと思えます。親と行政、子育て支援をしている企業などを結ぶことができる相談体制の設置を、ぜひよろしく願いいたします。

次に、国は、待機児童解消のための取り組みを加速化させるため、本年4月、平成25年・26年の2年間で20万人、29年度末までに40万人分の保育の受け皿を確保する待機児童解消加速化プランが発表されました。この待機児童解消加速化プランについてお聞かせください。

◎坂巻祐一子ども部長 待機児童解消加速化プランにつきましては、平成25年4月19日の安倍総理の成長戦略スピーチの中で発表されたプランでございます。

認可外保育施設の認可化に向けた支援や、賃貸ビルなどを活用した多様な主体による保育園設備等、即効性のある保育の受け皿整備、さらには保育士確保のための処遇改善等を行い、平成29年度までに待機児童ゼロを目指す総合的な対策でございます。

事業実施が単年度ごととなっておりますことから、今回は、平成25年度中に実施できる可能性のある事業として、保育所緊急整備事業、賃貸物件による保育所整備、保育士等処遇改善臨時特例事業について、待機児童解消加速化計画を提出したものでございます。

◆正田富美恵議員 この参加する自治体には、待機児童の減少目標数と保育整備目標量を定めた計画の提出が求められておりますが、本市も参加を希望しているということなので、この計画目標をお聞かせください。

◎坂巻祐一子ども部長 平成25年度のおくまで計画上の実施見込みといたしましては、保育所緊急整備事業として2カ所、賃貸物件による保育所整備事業として1カ所でございます。

プランの発表から計画提出までの期限が短かったため、粗い計画を作成したものでございますので、今後、実質的に事業が実施できる法人を対象に、子ども部内で検討し、年度内の整備を進めてまいりたいというふうに考えております。

◆正田富美恵議員 この事業は、25年度中に実施ということなので、早急にいろんな形で進めていただきたいと思えます。例えば、この待機児童解消加速化プランの中に、空き店舗を活用した子育て支援施設の整備に係る補助があります。この空き店舗を活用した子育て支援は、やはり中小企業と一層の連携を図って進めていかなければいけないと思えますが、この空き店舗がかなり商店街等もありますので、そういうところには、この子育て支援を使っていただいて、ぜひ待機児童の解消プランに参加していただきたいなと思えますので、これは要望といたします。

それでは、次に環境整備についてお伺いいたします。

老朽化した保育園の対策、耐震化計画策定に向けての今後のスケジュールなど、どのように考えておりますでしょうか、お聞かせください。

◎坂巻祐一子ども部長 老朽化した公立保育園につきまして、計画的に施設改修等を進めるため、現在、耐震診断を未実施の5園について行っているところでございます。

今後は、この診断結果に加え、既に実施済みの診断結果や、子ども・子育て新システムにおけるニーズ調査の結果明らかとなる保育需要等の情報をもとに、移転計画も含めた建てかえや耐震改修等、総合的な検討を実施し、第4次総合計画前期実施計画において今年度中に基本的な計画を策定することとしております。

◆正田富美恵議員 それでは、第4次総合計画前期実施計画は27年度で終了いたします。この27年度までには建てかえ・改修計画はできるということでしょうか。

◎坂巻祐一子ども部長 基本的な計画につきましては、そこで策定してまいります。

◆正田富美恵議員 次に、就学後の支援についてお聞きいたします。

待機児童対策と学童保育は、当然、働く親子にとって切り離せない課題だと思います。小学生になっても、一人で留守番していると思うと、一刻も早く帰ってあげたい、早く子供の笑顔を見て安心したい、働く親の誰もがそう思っていると思います。

国は、児童福祉法の改正に伴って、学童保育の対象が小学校6年生までになりました。本市では、市長が認め定員に余裕のある学童に限って小学校4年生まで認めておりますが、今後、学童の年齢拡充は必要だと思います。これに対してのお考えをお聞かせください。

◎坂巻祐一子ども部長 以前より、保育に際しまして特別な配慮を要する児童につきましては6年生まで受け入れ対象としておりましたが、平成24年度より、定員に余裕があると認める場合は配慮を要しない児童につきましても4年生の受け入れを実施しており、平成25年9月1日現在においては10学童保育所で23名の4年生の保育を実施しているところでございます。

また、今後、子ども・子育て関連3法のうち児童福祉法の改正におきまして、放課後児童健全育成事業の対象が、これまでのおおむね10歳未満の児童とされていたものから小学生というふうに変更され、今後、施行予定でありますことから、八千代市におきましても、地域ニーズ調査を踏まえ対応を検討してまいりたいと考えております。

◆正田富美恵議員 それでは、学童の建てかえと耐震計画についてはどのようになっておりますでしょうか。

◎坂巻祐一子ども部長 現在、子ども部内において、児童の安全の確保を基本に、将来の利用希望者数を見据えた定員の拡大や設置場所に関する基本的考え方、また老朽化した施設への対応や適正配置等を主な検討課題といたしまして、協議しているところでございます。

現時点では具体的な計画策定までは至っておりませんが、子育て施設の耐震化は極めて重要な行政課題であるとしておられますので、今後、公共施設再配置等推進委員会の議論にものせながら、引き続き検討を重ねてまいりたいと考えております。

◆正田富美恵議員 具体的な計画策定まではしていないということですが、耐震化診断はやられたのでしょうか。

◎坂巻祐一子ども部長 耐震化診断につきましても未実施でございます。

◆**正田富美恵議員** 市長は、今まで老朽化した学童保育所の耐震化対策や建てかえについて、かなり訴えておりますよね、さまざまところで。公約の中にも、公共施設ファシリティマネジメントを導入して、子育て支援をしようと言っております。先ほど子育て支援の考え方についてお聞きしたときも、子育てしやすい環境を整え、子供に視点を置いた施策は二の次にできない重要な施策だと考えているとおっしゃいました。真っ先にこの学童保育所の耐震化診断は計画を立てるべきだと思いますが、市長、いかがでしょうか。

◎**秋葉就一市長** まさにおっしゃるとおりでございます。21カ所の学童保育所のうち昭和40年代に建設されたものが4カ所ございます。そのうちの一つは、八千代台東小学校の新設に伴いまして移転の方向でございますけれども、まだ計画が定まっていないものもございます。

そうした状況の中において、先ほど保育園のほうの耐震化に向けても前期実施計画中に早急に急いでいくということを部長から答弁させましたが、学童保育所についても同様でございますので、なるべく早期に、耐震化プログラムの策定とあわせ、これは、全庁的な耐震化プログラムというのが耐震改修促進法のほうでも求められているところでもありますけれども、そちらの進捗とあわせ、できるだけ早急に策定してまいりたいと考えております。

◆**正田富美恵議員** 子育て支援は未来への投資であります。市長が市民とお約束されたマニフェストに書かれておりますことは、ぜひ早急を実現をお願いしたいと思います。そして、いつまでやるのか、これもきちんと決めていただきたいと思います。

次に、教育について、1点目の教育環境整備について何点か伺いたします。

市長は、公約の中で、小・中学校のトイレの抜本的改修、全面交換も含む老朽化対策を掲げておりますが、このことは、以前から何度も私たち公明党が主張してきたことでもあります。早急に対応していただきたいと思いますが、このトイレの改修計画について具体的な計画は立てていただいたのでしょうか、お聞かせください。

◎**加賀谷孝教育長** お答えいたします。

小・中学校のトイレ改修につきましては学校現場や保護者などから要望をいただいております。市長マニフェストにも掲げられていることから、今回の補正予算に設計費を計上したことを踏まえ、本格的な実施に向けて、今後、関係部局と協議してまいりたいと考えております。

◆**正田富美恵議員** 学校のトイレ研究会という団体が全国の自治体を対象に行ったアンケート調査によれば、学校で早急に改善すべき場所として、トイレの改修が学校の耐震化に続いて第2位となっております。全国では、それを反映するかのようにトイレの改修は行われておりますが、滋賀県近江八幡市の八幡東中学校では、夏休み前からトイレの大規模改修工事が進められており、2学期のスタートとともに一部のトイレが完成いたしました。

この改修工事は、生徒会を中心に、作業チーム「東中トイレ・リフレッシュ・プラン」を立ち上げ、教育委員会・学校と協働して生徒たちの要望にこたえたトイレの改修を行ったそうです。具体的には、生徒たちからアンケートをとり、生徒たちが要望したことを取り入れて、荷物置き用のカウンター・姿見用の大きな鏡などを設置したそうです。

本市でも、トイレの改修計画を立てるということですが、使用する生徒たちの要望を聞くことができればと思いますが、その点についてはいかがでしょうか。

◎加賀谷孝教育長 生徒たちの意見ですけれども、学校を通して聞ける範囲で聞きたいというふうに思います。

◆正田富美恵議員 生徒たちのアンケートをぜひ取り入れて、意見をしっかりと吸い上げていただきたいと思います。

次に、非構造部材の耐震化について伺います。

東日本大震災で、学校体育館の天井が崩落した事例があり、国は学校施設のつり天井について撤去することを勧められておりますが、本市の学校施設における非構造部材の安全点検の現状と今後の対策についてお聞かせください。

◎加賀谷孝教育長 お答えいたします。

東日本大震災では、本市においても、一部、つり天井を有する体育館で天井材の部分落下が確認されたことから、つり天井を有する体育館の被害状況の確認を行うとともに、天井の点検を行いました。

被害のあった体育館は復旧工事を実施いたしましたが、現在、小・中学校で、つり天井を有する体育館のある学校は小学校6校、中学校3校でございます。

つり天井を含む非構造部材は急務の課題であり、耐震対策を速やかに実施する必要があることから、国庫補助の防災機能強化事業を活用し、平成27年度までにつり天井を撤去する計画となっております。本年度は、4校の実施設計を発注しております。

また、校舎の落下のおそれのあるベランダ・手すりなどの非構造部材の耐震化につきましては、平成22年3月の文部科学省通知により、「地震による落下物や転倒物から子どもを守るために～学校施設の非構造部材の耐震化ガイドブック～」による日常点検の実施について学校に周知しておりますが、例年8月に実施する学校要望調査での営繕工事の要望結果を踏まえ、学校と連携し、非構造部材の実態把握に努め、学校施設の点検及び安全対策を図ってまいりたいと考えております。

◆正田富美恵議員 それでは、ことしの夏は大変な猛暑日が続き、9月に入っても続いております。このような暑さの中で、学校における快適な教育環境整備は重要な課題です。船橋は、市内の学校すべてにクーラーの設置をされたそうです。

今後は、本市でも普通教室へのクーラーの設置について推進をしていかなければならないと思いますが、お考えをお聞かせください。

◎加賀谷孝教育長 お答えいたします。

児童・生徒の健康や昨今の気候等を考えますと、学校施設の暑さ対策が必要であると考えており、その対応として、総合的に判断して、普通教室に扇風機を設置したところであります。

クーラーの設置につきましては、音の問題から窓があけられない音楽室などの特別教室や夏休み中でも使用する職員室など、未整備のところがあり、またキュービクルなどの受電設備の増設などを含め、多額の工事費を要することになることから、他の施設整備との優先度を勘案しながら進めていかなければならないと考えております。

また、普通教室のクーラーにつきましては、現時点では、扇風機の導入効果を見た中で、今後、検討してまいりたいと考えております。

◆**正田富美恵議員** 市内の学級数は500以上ありますので、すべての学級に設置するとなると多額な費用が必要ですし、設置時期が数年単位ですれることから、教育環境における学校間の格差が続くという課題の発生も予想されるところです。

しかし、このような猛暑の中で、音楽室など、窓を閉めなければならない場所には、早急にクーラーの設置が必要だと思います。せめて、特別教室に対してクーラーの設置を早急に対応していただきたいと要望いたします。

次に、AEDについてお聞きいたします。AEDは、現在、各学校に1台設置しております。ほとんどが保健室か職員室です。

本市では、市民の体力向上及び健康増進を図るために、市内の小・中学校の体育館33カ所を対象として、428以上の団体が学校体育施設開放事業を利用しております。運動場も、20カ所、90の団体が利用されております。団体の中には、幼児から高齢者までさまざまな年齢の方たちがおります。学校教育に支障がない時間帯の事業ですので、緊急に何かあったときは、ほとんど職員が不在だと思います。AEDが必要であっても、保健室や職員室に入ることができないために使用ができません。

これに対して、以前も緑川議員が指摘しておられますが、その際、緊急時の対応として関係部局と協議し検討してまいりたいと御答弁されております。その後の検討はされましたでしょうか、検討結果と対応についてお聞かせください。

◎**伊藤一男生涯学習部長** お答えいたします。

AEDにつきましては、各学校に1台ずつ用意されており、学校により、保健室・職員室または事務室など、緊急時の対応が行いやすい場所に設置しておりますが、体育館に設置している学校はございません。

関係部局と学校のAEDの使用について検討いたしておりますが、具体的な方法について決定しておりませんので、引き続き緊急時の対応を検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◆**正田富美恵議員** いまだに検討していないということなので、遅いと思います。AEDはやはり命の問題です。早急に協議をしていただきたいと思うのですが、ある学校体育施設開放事業に参加している団体の方から、何かあったら緊急の対応について聞いたところ、担当者から「ガラスを割って侵入してください」と言われたそうですが、学校側はそれでよろしいのでしょうか。AEDは大変に大事な問題なので、早急に体育館を使用する場合の安全対策、教育委員会と生涯学習部で協議し検討していただきたいと思いますが、学校の施設に関して、教育現場の責任者である教育長、いかがでしょうか。

◎**加賀谷孝教育長** 直接的な担当は生涯学習部でございますけれども、要望があれば、また検討・協議したいというふうに思います。

◆**正田富美恵議員** そこがなかなかうまくいっていないので、安全対策がなされていないんじゃないのかなと思います。ともかく、一日も早く生涯学習部と教育委員会としっかりとAEDに関しては対応していただきたいと要望いたしますので、よろしく願いいたします。

それでは、脳脊髄液減少症など、研修が必要な病気について伺います。

脳脊髄液減少症は、交通事故やスポーツ外傷など、体への衝撃によって脳脊髄液が漏れ続け

減少することで、頭痛や目まい・耳鳴り・吐き気などさまざまな症状に慢性的に苦しめられる病気です。最近、子供たちの発症例が多数報告されております。そのほとんどが学校生活の中で起きた事故が原因です。毎日、元気に通学し、勉強や部活に励んでいた子供たちが、体育の授業中に転倒したことや部活の練習中に起きた事故、廊下での転倒などがきっかけで発症しております。

残念なことに、本市でも、授業中にお友達とぶつかり転倒し、発症して苦しんでいる児童の方がおられます。朝、頭痛で起きることができず、立ちくらみや目まいなどの症状が出るため、似たような症状の自律性失調症、心因的なものと誤解されやすく、学校ではいわゆる不登校と判断されがちで、病気に対する適切なケアがなされていないのが現状です。そのため、専門家は学校現場での脳脊髄液減少症の対策の必要性を訴えております。

宮城県仙台市では、養護教諭等の研修会で脳脊髄液減少症について学習、学校現場での理解が深まることによって、この病気の症状が思い当たる児童・生徒を新たに3人発見することができたそうです。そのうちの一人を、専門家の治療を受けることを勧め、そして治療を受けたそうですが、そこで本市では、この脳脊髄液減少症に対する対応についてどのような取り組みをなされておりますでしょうか、お聞かせください。

◎加賀谷孝教育長 お答えいたします。

脳脊髄液減少症などの難病の理解と対応につきましては、文部科学省からの通達を受け、各小・中学校に指導いたしました。

また、校長会議などにおきまして、各小・中学校に、脳脊髄液減少症についての理解、スポーツ外傷等による脳脊髄液減少症への適切な対応について指示いたしました。さらに、平成22年度の保健主事・養護教諭合同研修会におきまして、脳脊髄液減少症に関する専門医を招聘し講演会を実施いたしました。各小・中学校におきましては、症状への理解及び児童・生徒への対応の仕方について教職員への共通理解を図りました。

今後、脳脊髄液減少症などの難病の理解と適切な対応ができるように、研修に取り組んでまいりたいと考えております。

◆正田富美恵議員 本市では、教育委員会のホームページにこのことは掲載していただき、また先ほど22年度に研修会を一度実施していただいたということですが、先ほどの事例のように本市で起こったことは、この研修会以後に、残念なことに発症しております。どうかその周知徹底のためにも、さらなる先生方の研修会を開催して取り組んでいただきたいと再度要望いたしますが、いかがでしょうか。

◎加賀谷孝教育長 再度、徹底してまいりたいと思います。

◆正田富美恵議員 具体的に、ぜひ研修会を開催していただきたいと思います。子供たちにとって一番身近な現場が学校です。教職員の知識があれば、すぐに適切な対応ができます。特に、この脳脊髄液減少症は、発症して時間がたっていない場合は、安静と点滴で半数の方が軽快します。事故後、病院で、もしかしてこの脳脊髄液減少症かもしれませんと養護の先生また教職員の方が医療機関に伝えるだけでも、それだけでもいいのです。

すべての子供たちにとって、安全な教育環境で楽しい学校生活を送らせていただきたいと思いますので、研修会の開催、よろしく願いいたします。

次に、地域に開かれた特色ある学校づくりの取り組みについては、次回の質問とさせていただきます

す。

新川周辺地区都市再生整備計画について伺います。

私たち公明党は、中央図書館の建設をずっと推進してまいりました。建設につきましては計画が進んでおりますが、これからは中身が大事だと思っております。中身の議論をしたいと思っております。

先日、私たち会派で、全国でも話題になっている武雄市の図書館に行つてまいりました。その際、直接、武雄市長にお話を伺うことができ、市長の思いから始まった利用者の立場に立ったサービスがこの図書館では行われており、すばらしい図書館でした。館内にはカフェがあり、コーヒーを片手に館内の本が読める。TSUTAYAのポイントもつけることができ、開館時間も365日朝9時から夜9時までと大変充実しておりました。

武雄市長は、そのようなサービスを提供するのは行政では無理、民間委託をしようとCDや書籍を販売するTSUTAYAの企画会社に、市長みずから委託をお願いしたそうです。激しい賛否の嵐があったそうですが、理想の図書館を武雄市につくる、その信念のもとでできたのが、今や全国で有名になり、全国から人口5万人の小さな武雄市の図書館に集まってこられております。ゴールデンウィークには、一日7,000人が来館されたそうです。そればかりか、市民アンケートでは市民の70%がこの図書館に期待すると答えているそうです。

8月の臨時議会で、中央図書館の議案が可決され、今後、建設されます中央図書館も、秋葉市長がリーダーシップを発揮していただき、多くの市民が利用し、図書館ができてよかったと皆が誇れる図書館をつくっていただきたいと強く思います。

今後、建設される中央図書館、市長はどのような思いでつくっていかうと思っておりますか、お考えをお聞かせください。

◎秋葉就一市長 お答え申し上げます。

(仮称)八千代市立中央図書館につきましては、施設面の特徴や緑豊かな県立八千代広域公園内という立地条件を十分に生かし、情報化社会や生涯学習時代に対応した新たな事業を展開して、市民の期待するサービスが提供できるように、効果的で効率的な管理運営を行いたいと考えております。

豊富な資料や情報の中で、滞在型の読書や学習ができ、また新たな出会いや交流の機会を持つことにより、市民一人一人が、充実した時間を過ごすことができるような生涯学習の拠点として、学び・憩い・集い・情報の場としてまいります。

このことを実現するための対応といたしましては、民間活力を活用し、指定管理者制度の導入も視野に入れた中で、開館日・開館時間の充実や蔵書の充実、丁寧な接遇、わかりやすい説明、図書の並べ方や展示の工夫など、一つ一つのサービスをよりよくし、新しい取り組みを積極的に行い、何度も行きたくなるような魅力的な図書館を目指したいと考えております。

しかしながら、実施設計までの間は、前市長までの間に行われたことでございますので、既に予算が議決され、一部の入札の仮契約も済んだところでの私の就任となっておりますので、すべての面において一から武雄市のような図書館を目指すことは、現実的には不可能な状況とはなっております。

また、市民クラブへの答弁の中でも申し上げましたように、昨年度の決算資料は、将来負担比率を除いてすべて軒並み悪化したところでもございますので、そうした状況の中で、維持管理費につ

いては、上限といいますか、無制限に維持管理費、図書館費を計上できるわけではないので、その範囲内で最も市民サービスを充実できる図書館にしていきたいと思います。

◆**正田富美恵議員** 武雄市では民間委託をして経費が下がったということですので、経費の面では民間委託でもそんなにかからないと思います。

24時間、だれかが起きて働く時代、この時代に必要とされるのは、365日あいていて、開館時間も遅くまで行っている図書館だと思います。そういう声を私も市民から多く聞きます。

今後、市民の声をどう聞いていくのか、お考えをお聞かせください。

◎**秋葉就一市長** まずは、今年度、もう既に約4週間にわたる地域図書館及び中央図書館・市民ギャラリーにつきましての意見募集を行い、また7月7日には、約2時間をかけて八千代台東南公共センターにおいて市民説明会を開催したところでございます。

そのほかにも、市長への手紙やメール等は常に365日受け付けておりますし、また今後、図書館協議会等関連する審議会等でも御意見を伺ってまいりたいと考えておりますし、そのほか任意・随時の市長対話や懇談会等の場でも御意見をしっかりと伺ってまいりたいと考えております。

◆**正田富美恵議員** 図書館は、建物ができ上がってもそれが新しい図書館の完成ではなく、八千代市に暮らす市民全員に喜んでもらうためには、運営面での努力も欠かせません。建物にどのような命を吹き込むのか、そして障害をお持ちの方も、乳幼児・高齢者の方にとっても心地よい場所になるように、どうか利用者の市民の皆さんの意見を真摯に聞きながら、ともに八千代市にとってシンボルとなるようなすてきな図書館をつくっていただきたいと願っております。

次に、総合グラウンドについて伺います。

昨日、7年後に東京でのオリンピック・パラリンピックの開催が決まりました。今後、ますますスポーツに対する期待・関心が高まってくると思います。

そこで、本市におきましては、総合グラウンドができることによって、スポーツ振興がますます発展してくると思いますが、この総合グラウンドができることによって、市民のスポーツ振興をどのように図っていくのか、お聞かせください。

◎**伊藤一男生涯学習部長** お答えいたします。

平成25年3月に、本市におけるスポーツ推進の基本計画として、八千代市スポーツ推進計画を策定いたしました。

本計画の具体的な取り組みとして、スポーツ施設の充実がございまして、小学生と中学生による総合体育祭などの全市的なスポーツ大会や各種スポーツイベントの開催など、スポーツ活動の中核的施設となる総合グラウンドが開設されることで、より一層市民のスポーツ振興が図られ、幅広い年齢層の健康増進につながると思います。

総合グラウンドをより多くの市民の皆様にご利用いただき、市民のだれもが健康で活力に満ちたスポーツのまちづくりの実現を図れるよう目指してまいります。

以上でございます。

◆**正田富美恵議員** それでは、総合グラウンドの利用について、体育協会や他のスポーツ団体の意見を取り入れる、他の団体との連携はどのように考えておりますでしょうか。

◎**伊藤一男生涯学習部長** お答えいたします。

総合グラウンドを活動しやすい施設として整備し、開設後により多くの市民や団体の皆様に利用

していただくため、平成23年3月と5月、そして平成24年10月の3回、八千代市体育協会を初め市内のスポーツ団体などの代表者にお集まりいただき、利用者の立場からの御意見を聞かせていただく意見交換会を行いました。

一年を通してトラックやフィールドを利用可能とするため人工芝としたことや、夜間利用のため照明設備を取り入れたことは、意見交換会における御意見を取り入れたものでございます。

その他の御意見につきましても、今後の運営に生かしていきたいと考えております。

以上でございます。

◆正田富美恵議員 ありがとうございます。スポーツ推進計画、八千代市にございますが、その中にこの総合グラウンドが余り出ておりませんよね。この総合グラウンドの利用について、しっかりここに掲げていただきたいなと要望いたします。

市内の子供たちにとっても、特に陸上をやっている児童・生徒にとっては待望の総合グラウンドだと思います。この総合グラウンドから、将来、オリンピック・パラリンピックに出場する子供たちも出るかもしれません。教育委員会としても、この総合グラウンドを最大限利用して、市内の子供たちの体力向上・スポーツ振興に役立てていただきたいと思います。

あわせて、八千代市の健康都市宣言を踏まえて、総合グラウンドの整備が、市民の健康づくり、スポーツ振興の中心拠点として市民の皆様に利用され、健康で生き生きと暮らせるまちづくりに寄与できるように願っております。

以上で総合グラウンドを終わりにします。

次に、農業交流センターについて伺います。

4月にオープンした農業交流センターですが、当初の計画と違って、対岸の道の駅との橋ができておらず両方の施設が一体となっております。道の駅についてはますますにぎわっているようですが、道の駅と農業交流センターのそれぞれの4月からの利用者数を教えてください。

◎立石梅夫産業活力部長 お答えいたします。

八千代ふるさとステーションとやちよ農業交流センターの利用者数につきましては、平成25年4月から7月末までで、八千代ふるさとステーションは24万1,981人、やちよ農業交流センターは1,359人でございます。

◆正田富美恵議員 かなりの差がございまして、野外バーベキューなど、やちよ農業交流センターでは利用率を上げるために工夫はされていると思いますが、利用率を上げるために、今後どのような事業を展開しようと思っておりますでしょうか。

◎立石梅夫産業活力部長 お答えいたします。

やちよ農業交流センターの利用率を上げるため、指定管理者が市との指定管理協定に基づいて各種事業を実施しております。体験農園事業では、ソラマメやジャガイモ収穫体験、家族お米づくり体験、西高津小学校の児童やボーイスカウトによる田植え体験を実施いたしました。また、8月には4軒の梨農家で梨狩りを実施しております。教室・講習会では、ソラマメ料理教室、梅加工講習会、夏休みに合わせ、小学生までを対象としたブルーベリージャムづくり教室を開催いたしました。

そのほか、指定管理者の自主事業といたしまして、7月13日土曜日からバーベキューの営業を

開始いたしました。利用者からは、また利用したいという意見があり好評でございます。

これからもこのような事業を実施してまいりたいと考えております。

◆**正田富美恵議員** やはり道の駅と橋で一体となった施設でなければ、利用する人は、私は少ないのではないかなと思います。

今後、橋ができることを願って、この質問を終わりにいたします。

最後に、第2斎場についてお伺いいたします。

6月議会で市長は、地元住民の合意形成は重要だと答弁されておりますが、今後、地元住民説明会は、行う予定はありますでしょうか。

◎**皆見隆明健康福祉部長** お答えします。

本年3月に開催いたしました説明会におきまして、馬込斎場の火葬能力の限界に対応するため、本年度から第2斎場に係る具体的な事業に着手することを表明するとともに、今後、地元とは、建設に関する協議の場を設けたいとする意向をお伝えいたしましたところであり、今後につきましては、地元地域の代表者との協議に向けて作業を進めているところでございます。

また、事業の進捗状況につきましては、市民の皆様へ随時お知らせいたしてまいりますが、説明会等が必要と判断された場合には、四市複合事務組合と協議してまいりたいと考えております。

◆**正田富美恵議員** 市長は、これまで何度も住民説明会に参加されておりました。今後は、四市複合事務組合議会の議員として推進していくという立場でよろしいでしょうか。市長の立場で、第2斎場建設は、賛成ですか、反対ですか、一言でお答えしていただきたいと思っております。

◎**秋葉就一市長** その前に、申しわけございません、先ほど産業活力部長より農業交流センターの利用者数についての答弁がありましたけれども、あちらの施設は、4月13日からの開館ということと、市長選挙の1カ月半前からテナントが決まっていなかったという事情もしんしゃくしていただきたい。

今の御質問でございますけれども、一応、平成25年8月現在の進捗状況も踏まえた上で、最後にしっかりと御質問にお答えさせていただきたいと思っております。

8月現在ですが、測量調査が5月に……

◆**正田富美恵議員** 議長、そこは聞いておりません。

◎**秋葉就一市長** それも踏まえての私の見解でございますので……

◆**正田富美恵議員** 時間がありません。

◎**秋葉就一市長** 手短かにさせていただきます。境界杭の確認等の現地調査を行い、基本測量が実施されました。

今後は、現況測量図等の作成が四市複合事務組合によって行われていく予定でございます。また、設計業務及び環境影響評価調査業務は、6月に請負業者と契約が締結され、設計条件の整理及び環境に関する各種調査が行われているところでございます。そして、最後に埋蔵文化財調査が、9月前半を目安に進入区域の確認調査、そして11月より本調査へ移行する予定となっております。

私の見解といたしましては、まずはこの4市における高齢化の進行は、顕著であり、事実であり、将来死亡者数を推測いたしましても、火葬件数は年々増加の状況にあり、既存の馬込斎場においては、火葬受け入れ時間の延長による一日当たりの火葬件数の増加や、友引日の火葬実施等

を余儀なくされており、平成31年度には火葬能力が限界になるものと推測されております。

こうした中では、四市複合事務組合を構成しております4市市民のために、この中には八千代市民も含まれるわけですが、第2斎場の建設は急務であると認識しております。

また、馬込斎場近隣の住民の方々には、今、申しましたような当初想定の……

○松井秀雄議長 市長、簡潔にお願いします。

◎秋葉就一市長 超える御負担がかかっている状況ということも認識しなければなりません。

また、一方で、私は、市長就任当初より、第2斎場建設に関して、近隣住民の皆様との協議について、四市複合事務組合に対し、説明会の継続や他の3市の市長も参加するよう要望してまいりました。

今後におきましても、今まで以上に、近隣住民の方々との意見交換・合意形成に向けて、四市複合事務組合に対し話し合いの場を設けるよう要請するとともに、そうした形の中で……

〔何事か呼ぶ者あり〕

◎秋葉就一市長 第2斎場建設は、この方針で行ってまいるということでございます。

◆正田富美恵議員 賛成か反対か、私はお聞きしたのですが、もう少しはっきりと市長の意思を短いフレーズでわかるように答弁していただきたいなと思います。

しかし、時間がありませんので、もうこれで終わりにいたします。

最後に、市長は、20万市民の市政を預かるトップリーダーである以上、やはり木を見て森を見ずといった近視眼的な視点ではなく、より広範な視点で市政の諸問題を見詰めていただいて、情報発信をされることを強く求め、私の代表質問を終わりにいたします。ありがとうございました。